

上下水道分野における処理技術に関する特別会議への参加

研究第一部

研究員

吉田 健



LOTUS Projectを発表

2009年3月30日から4月2日に、IWA主催「第5回特別会議」がドイツ・ベルリンにて開催されました。この会議は、世界の「水」に関する多種多様なテーマについて、最先端の研究・技術を発表する場として定期的に開催されており、我が国の「水」に関する技術発展、情報収集に大きく寄与するものです。また、世界各国における「技術の橋渡し」の機能も有しており、昨今「水資源確保」、「水の安全性」等が危惧される中で、発表内容も非常に関心の高いものとなっていました。今回の発表テーマは、「上下水道分野における水処理技術」で、本機構は「LOTUS Project」の取り組みと成果についてポスターセッションを行いました。また、海外における水処理技術に関する情報収集を目的に、口頭発表にも参加しました。



3Rが主要テーマに

「循環型社会の形成」は、持続可能な社会の構築に向けた世界的に重要なテーマであり、下水道分野においても「3R (Reduce (発生抑制) - Reuse (再利用) - Recycle (再生利用))」に基づく制度設計や技術開発が、産学官を中心に各国で進められています。また、下水道分野は、「3R」の実現による社会的貢献

度の高さから、その実行・実現が期待される事業や研究が多く、今後制度面・技術面 (ハード&ソフト) 双方において他分野をリードしていくことができる重要な分野と言えます。今回の会議でも、「3R」をテーマとした研究発表が多く見受けられ、中でも以下の2点に焦点が絞られていました。

- ①省エネルギーによるコスト削減を目的とした自然エネルギー (太陽光発電・風力発電等) の効率的な実用方法について
- ②先進諸国以外の新興国における工業発展を背景として、従来の水質評価基準であるBOD, COD, SS, 窒素, リン等に加えて、重金属 (亜鉛, 鉄, 鉛等) や環境ホルモン (ベンゾaピレン, ビスフェノールA等) などの水質項目を対象とした除去技術や評価

今回の会議を通して、我が国における水処理技術に関する研究および開発力は、世界的に見ても遜色ないものですが、それをアピールする力は他国と比べ控え目な印象を受けました。

昨今、様々な分野で「グローバル化」が叫ばれる中、下水道技術についても、今後その波を感じる機会が多くなると思われます。グローバル化への対応は、それを取り巻く様々な環境・諸課題について整理する必要がありますが、今後我が国の下水道技術の更なる技術発展のためには、世界的な技術競争に積極的に参画していくことも重要だと感じました。



ポスターセッションの様子



口頭発表の様子